

2学年通信

Practice Makes Perfect

担当：井上脩

『Practice Makes Perfect』

学年スローガンであるこの言葉の意味を覚えているでしょうか。年度始まり（4月）の学年通信内で学年主任の富田先生がコラムに記載していた言葉です。この言葉は、「継続は力なり」「習うより慣れよ」などと訳され、「行動」することの必要性・重要性を説くものであると記されていました。



この1年を振り返り、皆さんがさまざまな場面、局面において自らの意思で行動することができたかどうかを思い返してみてください。学校生活はもちろんのこと、私生活においても「誰かに言われたからやる」という形で行動した事や、「友達と同じが良いから」などの理由で、自分の意思ではなく周囲に合わせた行動をとってしまった経験はありませんでしたか？主体的に行動を起こさなければ、経験することも、失敗から学び改善することもできず、何の成果にも繋がりません。仮に行動を起こしても、誰かに合わせてばかりでは自分自身は変わりません。目標に向かって道筋を立てて行動しない限り、成績は伸びないし、資格検定は受からないし、希望進路を実現することはありません。皆さんがその事実についていつ気づき、改善するかです。きっかけとなるチャンスやヒントは、日常生活の中に多く転がっています。まだまだ遅くはありません。今この瞬間から行動することで、未来をより良い方向へ変えられるはずです。

～面倒くさい事にこそ価値がある～

話は変わりますが、皆さんは、物事に対して面倒くさい、やりたくないと思った経験はありますか？また、初めは頑張ろうと意気込んでも途中で諦め行動に移さなかったり、後回しにしてしまったことはないでしょうか。

例えば、学校内外での学習に取り組む際、資格取得や評定平均の向上、希望する進路実現などの望みを叶えるには、日々の学習習慣の形成や積み重ねが重要です。これは皆さんの中でも共通認識として理解しているはずです。他にも、各学級での委員会活動、挨拶やごみ拾いなど、「やるべきだとわかっているけど面倒くさい」と感じてしまうことは日々の生活でもたくさんあると思います。しかし、見方を変えれば、「面倒くさい事にこそ価値がある」とも言えます。なぜなら、「面倒なことはみんながやろうとしないこと」だからです。それを率先して行うことで価値が生まれ、他に差を付けられるとするならば、できるだけ面倒なことに挑戦したほうが、誰も踏み入れたことのない領域に踏み込める可能性が広がるはずです。

「世の中の大事なことを怠って面倒くさいんだよ」



世界中でも有名なアニメ史の偉人である宮崎駿監督の言葉です。その「大事なこと」に気付くことができるか否かは、皆さんのこれからの懸かっています。まもなく3年生に進級し、卒業後の人生を左右するといっても過言ではない進路選択・進路決定の時期がやってきます。進学・就職に向けた願書提出や面接日などの日程、動きは志望校や志望企業などによって一人ひとり異なります。試験日、試験内容が全く異なる友人に合わせた対策やスケジュールリングで志望校に合格できるでしょうか。校内選考をクリアし、企業内定を勝ち取れるでしょうか。他の誰の為でもありません。皆さん自身の将来の為に、周りに流されず意思を強く持って行動できる人であってください。

Q アフリカのとある部族は、干ばつが続くと雨乞いの儀式を行います。その部族が儀式を行うと、100%の確率で絶対に雨が降り出すというのです。なぜでしょうか??

A 「雨が降るまで続けるから」



「そんなことか」「バカバカしい」と思った人もいるかもしれません。

ここでいう雨とは、「成功」や「結果」と置き換えられます。成功するには、成功するまで努力し続けなければよいということです。叶えたい夢や目標を持ったならば、そこに向けてとにかく挑戦を続けること、それが成功への1番の近道かもしれません。

☆3月（弥生）の行事予定

1	金	学年末試験⑤	16	土	
2	土		17	日	
3	日		18	月	短縮（50分×3限）
4	月	短縮（50分×3限） SNS 講話	19	火	3学期終業式
5	火	短縮（50分×4限）	20	水	春分の日
6	水	短縮（50分×3限）	21	木	
7	木	短縮（50分×3限）	22	金	
8	金	芸術鑑賞会	23	土	入学説明会
9	土		24	日	第三種電気主任技術者試験
10	日		25	月	
11	月	臨時休校	26	火	
12	火	短縮（50分×3限） 常任委員会	27	水	
13	水	短縮（50分×3限）	28	木	
14	木	短縮（50分×3限）	29	金	
15	金	短縮（50分×3限）	30	土	
			31	日	

☆コラム 『メメント・モリ（羅：memento mori）』

RPGではない。ラテン語で「自分がいつか必ず死ぬことを忘れるな」「人に訪れる死を忘ることなかれ」といった意味の警句。Appleの創業者スティーブ・ジョブスは17歳の時、この言葉に出会い、毎朝鏡に向かって自分に問い続けて生きた。死を前に問われるのは本当に重要な事だけだ。死を覚悟して生きるなら、何かを失う心配よりも自ずと今なすべき正しい事がわかる。この言葉、実は時代背景や宗教観によって捉え方が違っている。皆さんの受け取り方はどのようなものだろう。珠玉と言われる名言の価値は我らの行動次第であり、全てのひとにとって同じではない。

~~~~ Team Blue-2 Manager ~~~~